

ベルリンに残るタウト以外の 設計者によるモダニズム建築

お茶の水女子大学名誉教授 田中 辰明

ブルーノ・タウトは1920年代にモダニズムの旗頭としてベルリンを舞台に大活躍をした。ではブルーノ・タウト以外の建築家の作品としてどのような建築がベルリンのモダニズムとして残っているであろうか？もちろん多くの建築が残っているので、ここに紹介する建築の選択は筆者も苦しむところであった。筆者の好みを優先し選択したものをここに紹介したい。これら作品の設計者は直接ブルーノ・タウトと関係はしていないが、ほぼ同時代に活躍した建築家たちの作品であるからお互いに多かれ、少なかれ影響を合っていたはずである。それぞれの建物には所在地を示した。ドイツのタクシーは住所さえ示せばその場所に必ず運んでくれる。ドイツ旅行の際に参考として頂ければ幸いである。

1. ホーエンツォレン広場の教会 (Kirche am Hohenzollernplatz)

設計：フリッツ・ヘーガー(Fritz Höger) 建設年1930～33、所在地：Hohenzollernplatz。ハンブルグ出身の建築家フリッツ・ヘーガーが設計した唯一の教会



写真1 ホーエンツォレン広場の教会
(Kirche am Hohenzollernplatz)の鐘塔

である。幅の広い道路の交差点という良い立地条件を得て、遠方からも良く見える60mの鐘塔を設けた。ハンブルグで良く用いられるクリンカータイル建築とし、レンガも単に平積にするのではなく凹凸を設けた。教会と地区の集会所、牧師の住居(4軒)からなる。写真1にこの教会の鐘塔を示す。写真2に教会の側壁を示す。1930年に60mもの鐘塔にどのようにしてレンガを納めたのか、その下地はどうなっていたのかなど調べなければいけない点がある。



写真2 ホーエンツォレン広場教会の側壁

2. シェルハウス (Schell-Haus)

設計はエミール・ファーレンカンブ(Emil Fahrenkamp)で1930～32年に建設された。所在地はReichpietschufer 60である。

本来はシェル石油の為に建てられた。現在所有者は代わってベルリン市のガス会社になっているが現在もシェルハウスと呼ばれている。1958年に記念建築物として保護されるようになった。鉄骨造で波を打っているファッサードが特徴。1997～2000年にファッサードの改修が行われた。写真3にシェルハウスの外観を示す。



写真3 シェルハウス (Schell-Haus)

3. ルッペンホルンの独立住宅 (Einfamilienhäuser Am Rupenhorn)

設計はヴァシリ・ルックハルト、ハンス・ルックハルト他 (Wassili und Hans Luckhardt) で1929~1930年に建設された。所在地はAm Rupenhorn 24-25である。

ドイツ大手建設会社フィリップ・ホルツマン社も設計にかかわった。山荘風の瀟洒な大住宅。写真4に住宅の外観を示す。



写真4 ルッペンホルンの独立住宅 (Einfamilienhäuser Am Rupenhorn)

4. ミッテ地区の市営プール (Stadtbad Mitte)

設計カルロ イェルクマン (Carlo Jelkmann)。内部設計はハインリッヒ テッセナウ (Heinrich Tessenow) である。1929~30年に建設された。所在地はGartenstr. 5, である。1986~93年にかけて改修工事が行われた。ガラス窓面積を大きくとり自然採光を計った。外部ガラ

写真5 ジモンがベルリン市に
寄贈したことを記した銘板



写真6 ベルリン市の市営プール (Stadtbad Mitte)

スは規則正しい窓割りを行った。硬質焼きのクリンカーをファサードに用いている。これは本誌前月号で解説したようにユダヤ系ドイツ人で大商人であったジェームス・ジモンによりベルリン市に寄贈されたものである。写真5に室内プール入口に設けられたジモンがベルリン市に寄贈したことを記した銘板、写真6にベルリン市の市営プール外観を示す。

5. AOK (ドイツの保険会社) ベルリン本社ビル (AOK Berlin Zentralverwaltung)

設計者はアルフレド・ゴットタイナー (Alfred Gotthöner) である。1931~1932年にかけて建設された。表現主義的なレンガ建築である。このような建築はハンブルグを中心に北ドイツで見られる。柱を建物から表に飛び出させ、垂直に地面から最上部まで伸ばしている。写真7に建物の外観を示す。



写真7 AOK (ドイツの保険会社) ベルリン本社ビル
(AOK Berlin Zentralverwaltung)

6. 地下鉄駅スタディオン (U-Bahnhof Stadion) (現在はオリンピック・スタディオン)

設計はアルフレッド・グレンアンダー (Alfred Grenander) で建設は1929-30年にかけて行われた。ヒトラーが国威高揚をめざし開催された1936年のベルリンのオリンピックの為に地下鉄駅がオリンピックスタジアム近くに建設された。オリンピック競技場 (ヴェルナー・マルヒ: Werner March設計) はナチス好みの建築であるが、地下鉄駅はベルリンのモダニズムに含まれる建築である。写真8に地下鉄スタディオン駅を示す。



写真8 地下鉄スタディオン駅(U-Bahnhof Stadion)

7. クロイツ教会と牧師館 (Kreuzkirche mit Pfarrhaus)

設計はエルンスト パウルスとギュンター・パウルス (Ernst und Günter Paulus) である。1930年建設。所在地はHohenzollendammとFokenbeckstraßeの幅の広い道路の交差する場所。教会、牧師館、幼稚園が一体となった建物である。高温で焼いたタイルが外壁に用いられ、入り口部分の屋根はタイルで仕上げられている。写真9に教会正門、写真10に教会の外壁、写真11に教会玄関を示す。



写真9 クロイツ教会と牧師館 (Kreuzkirche mit Pfarrhaus)



写真10 クロイツ教会外壁



写真11 クロイツ教会玄関

8. フェミナ・パラスト (Femina Palast)

設計はリヒャルド ビーレンベルグ (Richard Bielenberg) とヨーゼフ モザー (Josef Moser) である。1928~31年に建設された。所在地はNürnbergstr. 50-55である。

今日ではホテルに改装されて使用されている。1階のファッサードが特徴的で、かつては社交ダンス場フェミナ・パラストと呼ばれていた。建物長さは156mあり、バルコニーがアクセントを与えている。室内に設けられた放熱器も陶製の覆いが設けられ、建物との調和がとられている。アール・デコ風建築とも言える。写真12にホテルファッサード、写真13にホテル入口、写真14に建物内部の階段を示す。



写真12 フェミナ・パラスト (Femina Palast) ファッサード



写真13 フェミナ・パラスト玄関

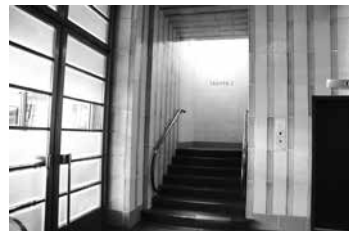


写真14 フェミナ・パラスト内部階段

9. リヒターフェルデの競技場 (Stadion Lichterfelde)

設計者はフリッツ・フライミュラー (Fritz Freymüller)

で1926-29年に建設された。所在地はOstpreußendamm 3-17である。建築家フライミュラーはシュテークリッツ (Steglitz) 地区に近代建築を数多く建設した人として有名である。シュテークリッツ (Steglitz) とは存続期間は短かったがゲッサウからパウハウスが移ってきた場所である。陸上競技場を含んでいる。写真15に階段室などがある塔状部分から2つの翼が張りだした体育館の外観を示す。写真16に体育館のやはり外観を示す。



写真 15 リヒターフェルデの競技場 (Stadion Lichterfelde)



写真 16 リヒターフェルデの競技場

10. 放送局 (Haus des Rundfunks)

設計ハンス・ペルチヒ (Hans Poelzig) で1928~31年にかけて建設された。

所在地はMasurenallee 8-14である。外装と内部は1985~90年に改装された。ドイツで第2番目の放送局。当時放送はニュースを伝達するのに大きな役割を果たし、重要な建築物であった。外装は茶色のクリンカータイル。



写真 17 放送局 (Haus des Rundfunks)



写真 18 放送局



写真 19 放送局ガラス窓を含む外壁



写真 20 放送局アトリウム



写真 21 放送局アトリウム

イル。内部のホールが素晴らしい。各階に停車しないで人が飛び乗り、飛び降りする当時のエレベーターが現在も使用されている。新生トルコ共和国でアタチュルク大統領が建築の教育の質を高めるためにイスタンブール芸術アカデミー (現在のミナール・シナン大学) にドイツから主任教授を招聘した。当初決まったのがこのペルチヒであった。しかしペルチヒは急死し、代わっ



写真 22 放送局の停止しないエレベーター

て日本の高崎に滞在していたブルーノ・タウトが招聘を受けたのである。写真17に放送局外壁、写真18に放送局外壁、写真19に放送局外壁、写真20に放送局アトリウム、写真21にやはり放送局アトリウム、写真22に停止しないエレベーターを示す。前述のようにこのエレベーターでは乗降する人はエレベーターに飛び乗り、飛び降りをして使用しなければならない。エレベーターに関する基準が厳しいわが国では考えられないものであるが、このような古典的なエレベーターが使用されている古いビルも結構存在している。

11. ツォーの官舎 (Beamtwohnhaus des Zoo)

設計者は1. のホーエンツォレン広場の教会と同じくフリッツ・ヘーガー(Fritz Höger)である。1928-1929年にかけて建設された。所在地はLützowuterstr. 36である。この建物はベルリン市ツォー動物園の敷地内にあり、現在も動物園従業員宿舎として使用されている。フリッツ・ヘーガーはハンブルグ出身の建築家でハンブルグに多く見られるレンガ作りの建築を設計した。レンガも単に平積するのではなく、凹凸を設けデザインした。写真23にこの官舎の外壁を示す。



写真23 ツォーの官舎 (Beamtwohnhaus des Zoo)

12. アブラハムゾン計測器会社 (Meßgerätefabrik Abrahamson)

設計者はマルチン・プニツァー(Martin Punitzer)で建設年は1928-29年である。所在地はNicolaistr. 7である。電気の測定機器メーカーの工場として建設された。事務所部分も含みモダンな工場であった。この建物の外観を写真24に示す。



写真24 アブラハムゾン計測器会社 (Meßgerätefabrik Abrahamson)

13. ヴェガ複合建築 (Wega Komplex)

設計はエーリッヒ・メンデルゾーン(Erich Mendelsohn)で1927-31年に建設された。所在地はKurfürstendammとCicerostr.の角地である。1920年代にドイツの名作映画を多数制作したウファー(Ufer)の映画館、キャバレー、そして事務所、集合住宅が存在する複合建築ブロックである。写真25に示す。



写真25 ヴェガ複合建築 (Wega Komplex)

14. 白い街 (Weißstadt)

2008年にタウトの集合住宅団地4件と共にユネスコ世界文化遺産に登録された集合住宅団地。建設面積14.3ha、緩衝帯面積50.1ha、総面積64.4ha。1929-30年建設。この集合住宅群の設計にはヴィルヘルム・ビューニング(Wilhelm Büning)、オットー・ルドルフ・ザルビスベルグ(Otto Rudolf Salvisberg)らが参加した。1270戸の住戸がある。レンガ作りであるが、全体が白色に彩色されているので、白い街と呼ばれている。オットー・ルドルフ・ザルビスベルグは比較的道幅のあるア



写真 26 白い街(Weißstadt)のある住宅の玄関



写真 28 大集合住宅団地ジーメンスシュタット (Großsiedlung Siemensstadt) ヘーリング設計によるバルコニー付き集合住宅



写真 29 大集合住宅団地ジーメンスシュタット (Großsiedlung Siemensstadt) ヘーリング設計によるバルコニー付き集合住宅



写真 27 白い街(Weißstadt)の道路の上に建設された集合住宅

ローザー道り (Aroser Allee) を跨ぐように集合住宅を設計している。ここではその建物を紹介する。写真26に白い街(Weißstadt)の住宅玄関、写真27に道路の上に建設された集合住宅を示す。

15. 大集合住宅団地ジーメンスシュタット (Großsiedlung Siemensstadt)

2008年にタウトの集合住宅団地4件と共にユネスコ世界文化遺産に登録された集合住宅団地。建設面積19.3ha、緩衝帯面積46.7ha、総面積66.0ha、1929-1931年に建設。

この集合住宅群の設計にはハンス・シャロン(Hans Scharoun)、ヴァルター・グロピウス(Walter Gropius)、フーゴー・ヘーリング(Hugo Häring)ら多くの有名建築家が参加した。ここではフーゴー・ヘーリングの作品を紹介する。80mの長さの集合住宅が9棟並んでいる。1住戸は2部屋、もしくは2部屋半のもので広くはない。

これに円形のバルコニーが付き部屋を広く感じさせている。

写真28、写真29にヘーリング設計によるバルコニー付き集合住宅を示す。

16. ヴァンゼー駅のレストラン (Gaststätte "Lorette am Wannsee")

設計はドイツ帝国鉄道建設局である。ベルリンの高架鉄道(S-Bahn)ヴァンゼー駅(Wannsee)駅に接続するレストランである。1933~34年に建設された。ベルリンに存在する唯一のフランク・ロイドの影響を強く受け



写真 30 ヴァンゼー駅のレストラン (Gaststätte "Lorette am Wannsee")

た建築である。所在地はKronprinzessinnenweg260である。褐色のクリンカータイルで仕上げられ、傾斜をつけた窓ガラスの取り付けなどにライト建築の影響が見られる。アール・デコ風建築とも言える。写真30にレストランの外観を示す。

17. ヴァンゼーの水浴場 (Strandbad Wannsee)

Richard ErmischとMartin Wagnerの共同設計で1929～30年に建設され。所在地はStrandweg25である。木造で建設されていたものが1927年に焼失し、鉄筋コンクリート造で再建されたものである。建物の中は脱衣室、売店、レストラン、シャワー室がある。黄色のクリンカータイルで仕上げられている。写真31に水浴場の建物外観を示す。



写真31 ヴァンゼーの水浴場 (Strandbad Wannsee)

18. 学校群 (Schulgruppe)

ブルーノ・タウトの実弟マックス・タウト (Max Taut) の設計。ベルリン市のリヒテンベルク (Lichtenberg) 地区のNöldnerplatz, Schlichtallee, Fischerstr. に建つ。マックス・タウトがコンペで残した作品で1927, 1929-32年に建設された。写真32に学校の群像を示す。敷地も



写真32 学校群

一辺が500mに及ぶ巨大なものである。小・中学校、職業学校、教育と文化センターなどがある。図書館、会議室もある。Max Taut Schuleの(マックス・タウト学校)看板もあり、Max Tautも兄Bruno Taut同様市民に敬愛された建築家であったことが分かる。

19. 消費協同組合の百貨店 (Kaufhaus der Konsumgenossenschaft)

これもマックス・タウトの設計である。ベルリン市クロイツベルク (Kreuzberg) 地区のOranienplatzに建つ消費協同組合の百貨店である。1932年に建設されたが、百貨店としては数年しか使われず、事務所に転用された。L字型をし、5階と9階建。窓が多く、貝殻石灰岩板で外装を行う。1階の柱は細い。入り口にはMax Taut Haus (マックス・タウトの建物) と書かれている。写真33に建物外観を写真34にビルに付けられたマックス・タウトの名前を示す。



写真33 消費協同組合の百貨店



写真34 消費協同組合の百貨店

20. 旧ドイツ帝国鉱山労働者共済組合 (Reichsknappschaftshaus) 建物

これはマックス・タウトとフランツ・ホッフマン (Franz Hoffmann) の共同設計である。マックス・タウトは兄ブルーノ・タウトとホッフマンの三人で共同の設計事務所を経営していた。

旧ドイツ帝国鉱山労働者共済組合 (Reichsknappschaftshaus) でベルリン市ヴィルマースドルフ (Wilmerdorf) 地区 Breitenbachplatz 2にある。1929-30年に設計され、L字型をし、3階建。ガラスを多用し、中から外の眺めを良くした。鉄骨の上に陶磁器の茶紫の外装を施した。建



写真35 旧ドイツ帝国
鉱山労働者共済組合
(Reichsknappschaftshaus)
建物

写真36 旧ドイツ帝国鉱
山労働者共済組合



物外観を写真35に示す。2つの建物を繋げる階段が美しく、これがMax Tautの得意技である。階段の写真を写真36に示す。第二次大戦で激しく破壊されたが、再建され現在はベルリン自由大学の建物になっている。

21. ショレマー通りの住宅 (Häuser Schorlemer Allee)

設計はヴァッシリ・ルックハルト(Wassili Luckhardt), ハンス・リックハルト(Hans Luckhardt)、アルフォンス・アンカー(Alfons Anker)の3名で建設年は1924～25年、1928～1930年で建設当時とは若干の変更が加えられている。ヴァッシリ・ルックハルト(Wassili Luckhardt)と、ハンス・リックハルト(Hans Luckhardt)は兄弟建築設計事務所を営んでいた。これにユダヤ人建築家アルフォンス・アンカー(Alfons Anker)が加わった。鉄筋コンクリート、鉄骨造を得意とし、白色の外壁仕



写真37 ショレマー通り 12-12C の住宅 (Schorlemer Allee 12-12C) 1988年に道路側外壁が修復された。



写真38 ショレマー通り 17B の住宅 (Schorlemer Allee 17B) 1945年に修復された。

上げとした。この地に小規模な集合住宅を数棟建設し、表現派の建築である。棟境いにガラスブロックの塀を用いた。住宅内では居室と食堂の間にフレキシブルな間仕切り壁が設けられた。ショレマー通り12-12Cの住宅を写真37に、ショレマー通り17Bの住宅を写真38に示す。

22. ヘルマン・ヴィッシンガーの墓標

本誌前号でベルリンのモダニズムとしてマックス・タウト設計のライプ・ダンツ氏の墓標を紹介した。マックス・タウトはヘルマン・ヴィッシンガー氏の墓標も設計している。これは建築物では



写真39 ヘルマン・ヴィッシンガーの墓標

ないが、マックス・タウトの作品で、モダニズムとして有名である。ベルリン市シュターンスドルフの中央墓地にある。1920～21年にかけて設計され、建設された。この墓標を写真39に示す。

〈参考文献〉

1. 田中辰明・柚木玲「建築家ブルーノ・タウト-人とその時代、建築、工芸 オーム社
2. 田中辰明「ブルーノ・タウト・・・日本美を再発見した建築家」、中公新書2159
3. 田中辰明「ブルーノ・タウトと建築・芸術・社会」東海大学出版会
4. 田中辰明「ブルーノ・タウトの作品」月刊建築仕上技術2014年3月号、工文社
5. 田中辰明「バウハウス(ヴァイマル)」月刊建築仕上技術2014年8月号、工文社
6. 田中辰明「バウハウス(デッサウ)」月刊建築仕上技術2014年9月号、工文社
7. 田中辰明「バウハウス(ベルリン)」月刊建築仕上技術2014年10月号、工文社
8. 田中辰明「ナチス好みの建築」月刊建築仕上技術2014年11月号、工文社
9. 田中辰明「建築家エルンスト・マイの生涯と作品」月刊建築仕上技術2015年2月号、工文社
10. 田中辰明「建築家エルンスト・マイの生涯と作品(その2)」月刊建築仕上技術2015年3月号、工文社